

第5分科会

技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

平成28年10月14日（金） 第2校時

指導学級・人数・場所 第3学年5組 35人 図書室

授業者 春日部市立東中学校 教諭 遠藤 昭子

1 題材名 「幼児の成長から自分の成長を見つめよう」

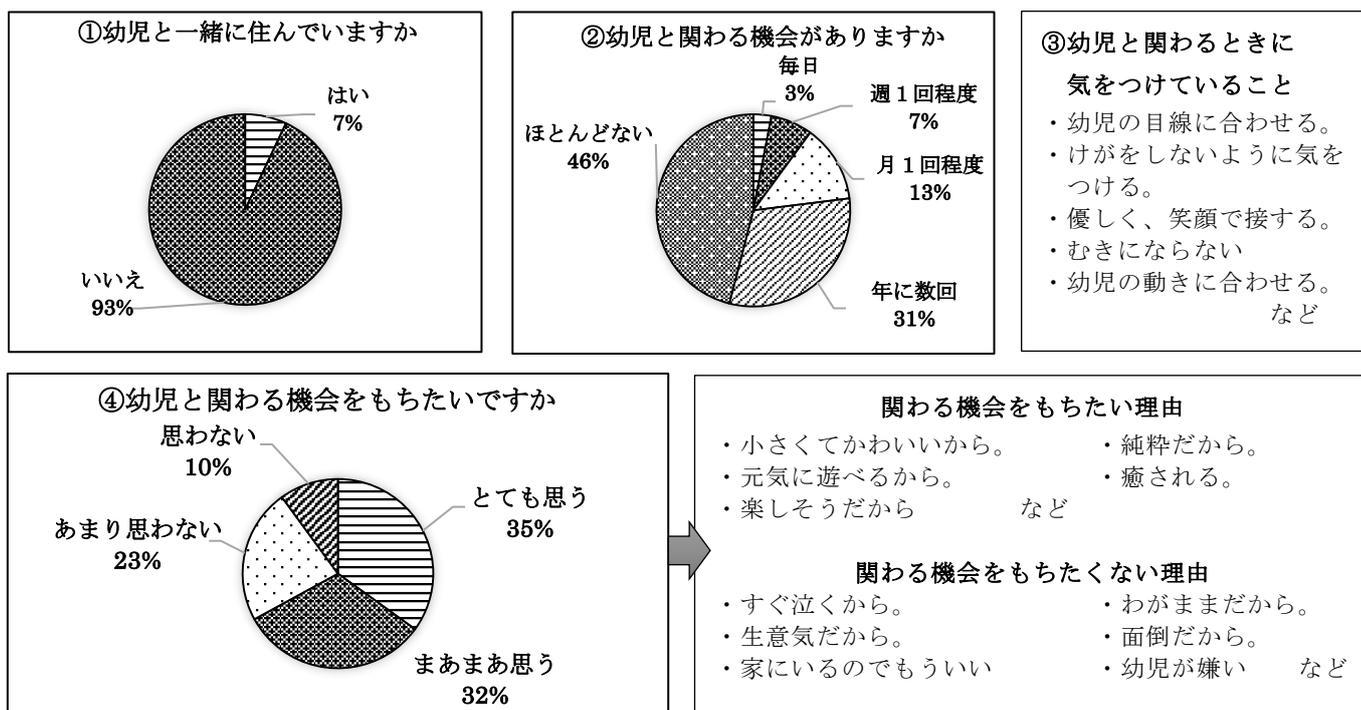
家庭分野 A家族・家庭と子どもの成長 (1)ア(2)イ(3)アイウエ 【16.5時間扱い】

2 題材設定の理由

(1)生徒観

生徒は第1学年において、自分の成長段階で支えてくれた周囲の人々との関わりについて学習し、その後も家族や地域の人々と関わる内容を学習してきた。

本題材の学習前である第2学年の最後に、幼児の観察を目的とした第1回目の触れ合い体験Aを児童センターで行った。以下は、第1回目の触れ合い体験Aの前に行ったアンケートの結果である。



アンケート実施日 H28. 3. 6 春日部市立東中学校 2学年（現3学年）210名

アンケートの結果から、幼児と一緒に住んでいる生徒が7%（①より）と大変少なく、毎日又は週に1回程度関わる生徒はわずか1割（②より）であることが分かった。しかし、「幼児と関わる機会をもちたいですか」という問いには、「とても思う」「まあまあ思う」という生徒が7割近く（④より）おり、「関わる機会をもちたい理由」も「かわいい」「癒される」「楽しそう」といった回答が多く見られ、幼児に対する好意的な印象をもつ生徒が多いことが分かった。一方「幼児と関わる機会をもちたくない」と回答している生徒の多くは、「すぐ泣く」「生意気」などあまりよい印象をもっていないことが分かった。

また、「幼児と関わる機会をもちたいですか」という質問に、「思わない」「あまり思わない」と回答した33%の生徒を調べてみると、97%の生徒は幼児と関わる機会が週1回未満と回答していることも分かった。このことから幼児と関わる機会があまりない生徒は、漠然としたイメージだけで関わりたくないと思っていると推測される。

アンケートとは別に行った「幼児」という言葉をキーワードに記入したイメージマップでは、「おむつ」「離乳食」「ハイハイ」などの記述が見られ、生徒は、乳児と幼児の区別がはっきりしていないことも分かった。

これらのことから身近に幼児と関わる機会の少ない生徒たちにとって、実際に幼児と触れ合う体験が増えることで、幼児に対するイメージも変わり、幼児への関心も高まるのではないかと考える。

(2) 題材観

近年、核家族化や少子化の進行、児童虐待、離婚率の増加、育児の孤立化、待機児童などの問題が山積している。

現学習指導要領では、「家族・家庭に関わる教育」と「幼児や子育て理解のための教育」の充実がより一層求められている。中学校の家庭分野「A家族・家庭と子どもの成長」では、小学校家庭科での学習を踏まえ、生活の自立を目指す中で人々に支えられて生活していることに気付かせ、家庭や家族の基本的な機能や家庭生活と地域との関わりを理解するとともに、幼児への理解を深め、子供が育つ環境としての家族と家庭・地域の役割を考えさせたい。

進路選択を行う中学3年生の時期に、自分の幼児期を振り返り、育てられたことに感謝したり、自身の将来を見据えたりすることで、家族を支える一員であることを自覚するよい機会であると考えた。さらに、10年後、15年後を具体的に想像し、未来を担う幼児とよりよく関わり、その成長を支える大人になってほしいと願い、本題材を設定した。

本題材では、自分と人（家族・幼児・高齢者など）との関わりを考えさせ、自己を見つめ直す機会を繰り返し設定している。様々な人との関わり方について、いろいろな角度から考えさせ、自分と様々な人との関わりについて、これまでどのように関わってきたか、これからどのように関わっていききたいかなどを自分の言葉で表現することで、家庭や地域の中でよりよい家庭生活を創造できる生徒の育成につながると考えている。

(3) 指導観

幼児に関する学習を展開する中で、幼児との関わりが少ない生徒に、幼児を身近なものとして捉えさせるためには、実際に幼児と触れ合う体験が効果的であると考え。埼玉県春日部市は「日本一幸せに子育てできるまち」を目指し、近隣には児童センター「エンゼルドーム」や「グーかすかべ」をはじめ、幼稚園・保育所、児童クラブなど子育て世代が便利に使用できる施設が充実している。本校ではそのような環境を生かし、各機関の協力を得て、3回の触れ合い体験を実施している。

1回目の触れ合い体験Aでは、「幼児期の成長について理解する」学習の前に、幼児への関心を高めることを目的に児童センター「エンゼルドーム」で幼児の観察を行った。2回目の触れ合い体験Bは、幼児の生活や家族についての事前学習で得た知識を生かして幼児と触れ合うことを目的に、保育所や幼稚園を訪問した。そして過去2回の触れ合い体験から考えた課題を解決するために「生活の課題と実践」において、3回目の触れ合い体験Cを子育て支援センターの協力を得て、幼児と保護者を本校に招いて行う。

また、触れ合い体験Bの後に、これまではまとめのレポート作成等を行っていたが、『シェアタイム』を取り入れた。本分科会では、『シェアタイム』を「自分が得た情報を伝えたり、他の生徒から得た情報を別の生徒に伝えたりする情報共有の方法」として名付けた。

『シェアタイム』では、まず同じ年齢の幼児と関わった生徒のグループ（以下「同年齢」とする）で情報交換した後、それ以外の年齢の幼児に関わった生徒のグループ（以下「異年齢」とする）で情

報交換を行うことで「言語活動の充実」を目指した。

『シェアタイム』の1時間目は「運動機能・手先の動き」「言葉やしぐさ・生活習慣などの特徴」「遊びの種類と遊び方・おもちゃ・道具」について「同年齢」「異年齢」で『シェアタイム』を行い、自分の体験していない幼児の様子を得る。本時は『シェアタイム』の2時間目であり「友達同士や先生、中学生との関わり方」のまとめを行い、『シェアタイム』で得た情報を活用し、学習課題の「よりよく関わるにはどうしたらよいだろうか」を解決していく。

このように体験活動や話し合い活動を積み重ね、自己を見つめる活動を繰り返し行うことで3年間を通して、第5分科会のテーマでもある「人と関わることを通して、自己を見つめ、よりよい家庭生活を創造できる生徒の育成」を図ることができると考えた。

3 研究テーマとの関わり

第5分科会研究テーマ
人と関わることを通して、自己を見つめ、よりよい家庭生活を創造できる生徒の育成
～人との関わりを重視した学習指導法の研究～

本分科会では、埼玉県のテーマを受け、次代を担い、社会を生き抜く力を育むためには、触れ合い体験などの実践的・体験的な学習活動の必要性や少子高齢化社会における、家族・幼児・高齢者・地域の人々とのつながりの必要性から、人と関わることを重要であると考え、研究を進めてきた。さらに、人との関わりを通して自己を見つめ直すとともに、これからの生活を具体的に展望できる力が、よりよい家庭生活を創造できる生徒の育成につながると考え、本テーマを設定した。

本題材を通して、生徒が様々な人と実際に関わり、学んだ知識や技能を生かした関わり方を考えることで、人とのよりよい関わり方を考え工夫する力の育成を目指している。また、自分と人との関わり方について、これまでどのように関わってきたのか、また、これからどのように関わっていききたいのかなど、じっくりと自己を見つめ直す時間が必要であると考え、自分の言葉で表現することを繰り返し設定している。このような学習を積み重ねることで、自分なりのよりよい家庭生活を創造できる生徒の育成を図り、テーマに迫っていききたい。

4 題材の目標

幼児と触れ合うなどの活動を通して、幼児に関心をもち、幼児の心身の発達や遊びの意義について理解し、幼児との関わり方を工夫できるようにする。

5 題材の評価規準

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
・自分の成長と家族や家庭生活とのかかわり、家庭と家族関係、幼児の生活と家族について関心をもって学習活動に取り組み、家族又は幼児の生活をよりよくするために実践しようとしている。	・家庭と家族関係、幼児の生活と家族について課題を見付け、その解決を目指して工夫し創造している。	・幼児の生活と家族に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	・家庭や家族の基本的な機能、家庭生活と地域とのかかわり、幼児の生活と家族について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

6 指導計画及び評価計画(16. 5時間扱い)

時間	○ねらい ・学習活動	学習内容	◇評価規準 〈 〉 評価方法			
			生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活の技能につい ての知識・理解
1	○自分の成長を振り返り、 幼児の生活と家族、幼児 を支える様々な人につい て関心をもつ。 ・写真資料等を見ながらこ れまでの成長を振り返り、 自分の家族との関わりを 考える。	自分の成長 自分と家族の 関わり	◇自分の成長や 生活は家族や それに関わる人々 に支えられてきたことに 気づき、幼児の生活と家 族について関心をもつて いる。 〈ワークシート〉			
2 3	○幼児の心身の発達の特 徴について知り、家族の 役割について理解する ・視聴覚教材や身近な幼 児の観察などを通して、 幼児の心身の発達の特 徴についてまとめ、それ を支える生活について考 える。	幼児の心身の 発達		◇幼児の心身の 発達に応じた接し方につ いて考え、工夫している。 〈ワークシート〉		◇幼児の心身の 発達の特徴につ いて理解している。 〈ワークシート〉 〈テスト〉 ◇幼児の発達を 支える家族の 役割について理解 している。 〈ワークシート〉
4	○幼児の生活習慣につ いて知り、家族の役割につ いて理解する。 ・視聴覚教材や身近な幼 児の観察を通して、基本 的な生活習慣を形成する 時の家族の関わり方につ いて考え、家族の役割につ いて話し合う。	幼児の生活 習慣				◇基本的な信頼 関係や生活習慣 の形成の重要性 とそれを支える 家族の役割につ いて理解してい る。 〈テスト〉
5	○幼児の観察や遊び体 験などを通して、幼児の 遊びの意義について理 解する。 ・幼児の1日の生活を理 解し、遊びと心身の発 達との関わりについて考 える。	幼児の生活と 遊び				◇幼児にとつ ての遊びの意 義について理 解している。 〈ワークシート〉
6 7	○安全への配慮につ いて十分に考え、幼児 との触れ合い活動の計 画を立てることができる。 ・幼児との遊び方や 関わり方の工夫を考 え、遊びの計画を立 てる。 ・遊びの計画をグル ープで話し合い、発 表する。	触れ合い体 験Bの準備、 計画	◇幼児と触れ 合う活動など通 して、幼児に関 心をもち、適切 に関わろうとし ている。 〈観察〉 〈ワークシート〉	◇幼児の心身 の発達に応じた 遊びや遊び方 について考え、 工夫している。 〈ワークシート〉		

8 9	○幼児との触れ合い体験を通して、幼児への関心を高めるとともに、幼児との関わり方を工夫できる。 ・前時の計画をもとに幼児と遊んだり、触れ合ったりする。 ・幼児の遊びと心身の発達との関わりについて観察する。	触れ合い体験 B (保育所・幼稚園での触れ合い)	◇幼児と触れ合う活動などを通して、幼児に関心をもち、適切に関わろうとしている。 〈観察〉 〈ワークシート〉			
10 11 本時	○幼児の観察や触れ合い活動について意見交換をし、情報を整理することで幼児について理解を深める。 ・触れ合い活動について観察したことや気づいたことなど、意見交換をする。 ・触れ合い活動から、幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫する。	触れ合い体験 Bの情報共有 振り返り		◇幼児の心身の発達に応じた関わり方について、観察したことを生かして考え、工夫している。 〈ワークシート〉	◇幼児の遊びや幼児の発達と人との関わりなどについて、観点に基づいて観察したことを整理することができる。 〈ワークシート〉	
12 13	○子供に関する諸問題や地域の実態から、家族や地域の役割を理解し、家族関係をよりよくするためについて考え、工夫することができる。 ・子供に関わる地域の施設や制度、ニュースなどを調べ、子供を育てるための環境について考える。 ・ニュースや事例家族から課題を見付け、よりよい生活を送るための工夫を考える。	子供の成長と 地域 幼児を取り巻く 環境	◇これからの自分と家族との関わりに関心をもち、家族関係をよりよくするためにできることを実践しようとしている。 〈観察〉 〈ワークシート〉	◇自分の生活や事例の家族について課題を見付け、家族関係をよりよくする方法について考え、工夫している。 〈ワークシート〉		◇子供を育てる環境としての家族や地域の役割を理解できる。 〈ワークシート〉 〈テスト〉
14 15 16 16.5	○家族又は幼児の生活に関心をもち、課題をもって家族関係又は幼児の生活について工夫し、計画を立てて実践できる。 ・自分の生活を見直すことで課題を見付け、計画する。 ・課題を実践し、評価する。評価、改善をする。 ・実践したことを発表し、意見を交換することで、自分の実践を見直し、改善する。	課題設定、計画 触れ合い体験 C (親子来校) 評価、改善	◇家族又は幼児の生活をよりよくすることに関心をもち、課題を主体的にとらえ、計画と実践に取り組もうとしている。 〈ワークシート〉	◇家族又は幼児の生活について課題を見付け、その解決を目指して計画を自分なりに工夫している。 ◇実践の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。 〈ワークシート〉 〈発表〉		

7 本時の学習(11/16, 5時間)

(1) 目標

- ・ 幼児の観察や触れ合い活動について情報交換し、幼児への理解を深め、よりよい関わり方を工夫することができる。

(2) 評価規準

- ・ 幼児の心身の発達に応じた関わり方について、観察したことを生かして考え、工夫している。
【生活を工夫し創造する能力】
- ・ 幼児の遊びや幼児の発達と人との関わりなどについて、観点に基づいて観察したことを、整理することができる。
【生活の技能】

(3) 展開

学習過程 (時間)	○学習内容 ・ 学習活動	□教師の働きかけ	評価と指導 【】評価の観点 <>評価方法 ◇評価規準 ◎「十分満足できる」状況 →努力を要する生徒への指導の手だて
導入 (5)	○前時の振り返り ・ 触れ合い体験の動画や写真、前時のワークシートを見て思い出す。	□幼児への理解を深めるために、前時のシェアタイムで出てきた幼児の特徴について動画や写真で振り返らせる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">シ ョ ア タ イ ム</div>			
情報収集 (10)	○幼児の「友達同士や先生、中学生との関わり方」についての情報交換。 ・ 1, 2, 3, 4, 5歳時を担当した生徒でシェアタイムをする。	□担当できなかった違う年齢の幼児についても情報を得るために、グループを作り直して意見交換させる。	【技能】〈ワークシート〉 ◇幼児の遊びや幼児の発達と人との関わりなどについて、観点に基づいて観察したことを、整理することができる。 ◎他の人の意見も取り入れ、自分の意見と比較するなどしてまとめることができる。 →自分が観察した年齢と発達の違いがあることに注目するよう助言する。 →発達には順序や段階があることに気付くよう助言する。
課題設定 (5)	○「友達同士や先生、中学生との関わり方」について発表 ・ 発表の中から事例をいくつか選び、課題を設定する。	□生徒の体験から課題を見つけるために、ワークシートの記述を参考に考えさせる。 □様々な事例について考えさせるために、同じようにならないものを設定させる。	

課題追求① (9)	○学習課題を確認 ・学習課題の把握		
学習課題：幼児とよりよく関わるにはどうしたらよいだろうか。			
	○よりよい関わり方の工夫 ・異年齢グループで関わり方を考え、ホワイトボードに記入する。	□心身の発達に応じた関わり方や言葉がけができるように、シェアタイムで使用したワークシートを参考にさせる。 □話し合いをスムーズに進めるために、グループでの役割（司会、記録、タイムキーパー、発表2名）を決めさせる。	【工夫・創造】〈ワークシート〉 ◇幼児の心身の発達に応じた関わり方について、観察したことを生かして考え、工夫している。 ◎自分が観察したことだけでなく、友達が観察してきたことも取り入れ、様々な年齢の幼児に合わせた関わり方を考えている。 →ワークシートを見て、年齢による幼児の心身の発達の違いと関連付けて考えるよう助言する。 →友達の工夫している意見を参考にして考えるよう助言する。
発表 (10)	○よりよい関わり方の工夫についての発表 ・グループで考えた関わり方の工夫をホワイトボードに記入しグループの代表2名が発表する。	□実践的な関わり方に近づけるために、幼児に話しかけるように発表するなどの工夫をさせる。	
課題追求② (5)	○専門家(児童館館長)の話 ・ゲストティーチャーの話聞く。	□幼児とよりよく関われるようにするために、専門家の話を聞き、周囲の人々の関わり方について理解を深めさせる。	
まとめ (6)	○自分と幼児とのよりよい関わり方 ・本時の学習を振り返り、これから幼児とどのように関わるかをまとめ、発表する。	□自分の言葉でまとめ、文章表現させることで、幼児とのよりよい関わり方を今後の生活に活かせるようにさせる。	

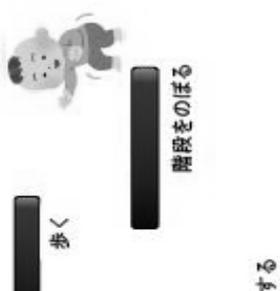
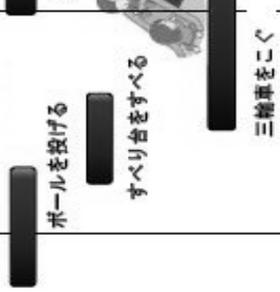
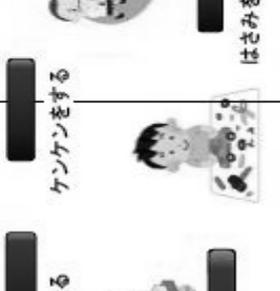
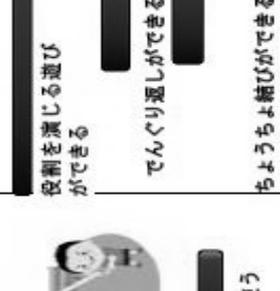
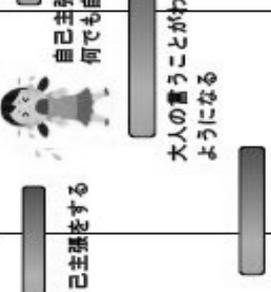
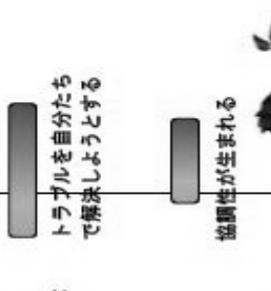
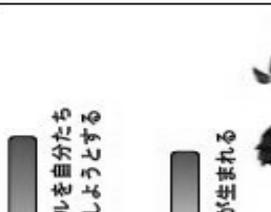
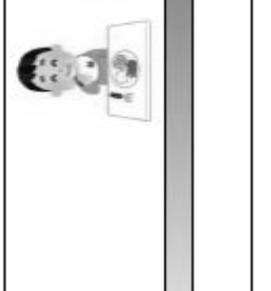
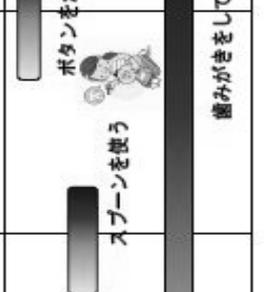
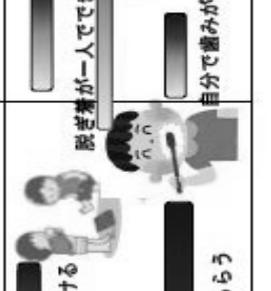
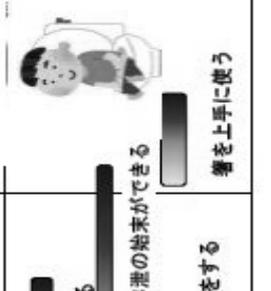
(4) 板書計画 (ホワイトボード 3枚)

学習課題	
① 運動機能・手先の動き	うまく関われなかったこと
② 言葉やしぐさ・生活習慣などの特徴	・
③ 遊びの種類と遊び方・おもちゃ・道具	・
④ 園児同士や先生・中学生との関わり	・

1 班のテーマ	2 班のテーマ	3 班のテーマ
2 歳 言葉かけ・行動 理由	2 歳 言葉かけ・行動 理由	2 歳 言葉かけ・行動 理由
5 歳 言葉かけ・行動 理由	5 歳 言葉かけ・行動 理由	5 歳 言葉かけ・行動 理由

4 班のテーマ	5 班のテーマ	6 班のテーマ
2 歳 言葉かけ・行動 理由	2 歳 言葉かけ・行動 理由	2 歳 言葉かけ・行動 理由
5 歳 言葉かけ・行動 理由	5 歳 言葉かけ・行動 理由	5 歳 言葉かけ・行動 理由

幼児の成長から自分の成長を見つめよう

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
運動機能	<p>首がすわる お座りができる ハイハイをする 膝這いを打つつかまり立ちをする</p> 	<p>歩く 階段をのぼる</p> 	<p>ボールを投げる すべり台をすべる 三輪車をこぐ</p> 	<p>走る ケンケンをする</p> 	<p>はさみを使う</p> 	<p>役割を演じる遊びができる でんぐり返しができる ちょうちよ結びができる</p> 
心・ことば	<p>おなかがすいたり、眠い時にぐずる あやすと笑う 「アー」「ウー」などの一語文 喃語を話す</p> 	<p>紙から離れることを怖がる 人見知りをする</p> 	<p>自己主張をする 大人の言うことがわかるようになる 「マンマ食べる」「ブーキーきた」などの二語文を話す</p> 	<p>自己主張が強くなる 何でも自分でしたがる 遊びの順番がわかる 遊びのルールがわかる</p> 	<p>なぜ? どうして? と 活発に質問する 遊びのルールを理解し、順番を待つことができる 協調性が生まれる</p> 	<p>トランプを自分たちで解決しようとする 協調性が生まれる</p> 
生活習慣		<p>ボタンをかける スプーンを使う</p> 	<p>ボタンをかける スプーンを使う</p> 	<p>脱ぎ着が一人でできる 排泄の始末ができる 自分で歯みがきをする</p> 	<p>排泄の始末ができる 自分で歯みがきをする 箸を上手に使う</p> 	

触れ合い体験 2

学年 (/ /)

学部 (/ /)

学部 (/ /)

学年 (/ /)

学部 (/ /)

シニアタイム 1. 同じ年齢グループ (異年齢と異年齢グループ) 異年齢で育てることを体験したこと共有しよう。互いの情報は書き添えてもらう。(記入例1歳①、5歳②)

	①運動機能・手先の動き	②言葉やしぐさ・生活習慣などの特徴	③遊びの種類と遊び方・おもちゃ・道具	④園児同士や先生・中学生との関わり方
1 ~ 2 歳				
3 ~ 5 歳				

3. よいよい関わり方を工夫しよう。
2歳児と5歳児にどんな言葉をかけたいだろう。
【テーマ】

2歳児
こんな言葉をかけます
「
」
理由
.....
.....

5歳児
こんな言葉をかけます
「
」
理由
.....
.....

2. 幼児とうまく関われたこと、関われなかったこと、友達の間で遊ぶようになったことを書く。

.....
.....
.....

4. あなたはこれから幼児とどのように関わりますか。

★
.....
.....
.....

年 組 番 氏名